

IMV株式会社

基幹システムと各種クラウドサービスとのデータ連携を自動化 高い安定性と柔軟な開発環境を活かし、全社的なBPRを推進

IMV株式会社は、振動を中心とした環境試験・計測・解析装置の製造・販売を行っている企業。メーカーの枠を超え、受託試験サービスやソリューション業務なども国内外で展開している。販売管理・生産管理は長年にわたってオンプレミスの基幹システムを使い続けてきたが、基幹システムだけではやりたいことが実現できなかったため、Salesforceやkintoneなどのクラウドサービスも導入し、業務システムを整備してきた。しかし複数システムを運用するとシステム間でデータの整合性を取るためにチェック業務が発生し事務員の業務負担が増大。そこで、ノーコードでのデータ連携が可能な「ASTERIA Warp Core」を導入し、基幹システムとSalesforce/kintoneとのデータ連携を自動化。さらに、Google WorkspaceやMicrosoft Accessとも連携し自動化する業務範囲を拡張している。

導入背景

- 基幹システムの受注データをSalesforceやkintoneに反映するために、営業事務員3名が毎月150件の入力・チェックを行っていたが、高い作業負荷に加え、入力ミスが許されなかったため心理的な負担も大きかった
- 製造・販売や受託試験サービスなどそれぞれの事業において必要な機能が異なるため、複数システムの運用は不可欠だった
- コーディングによるデータ連携にもトライしたが、API仕様の調査はハードルが高かった

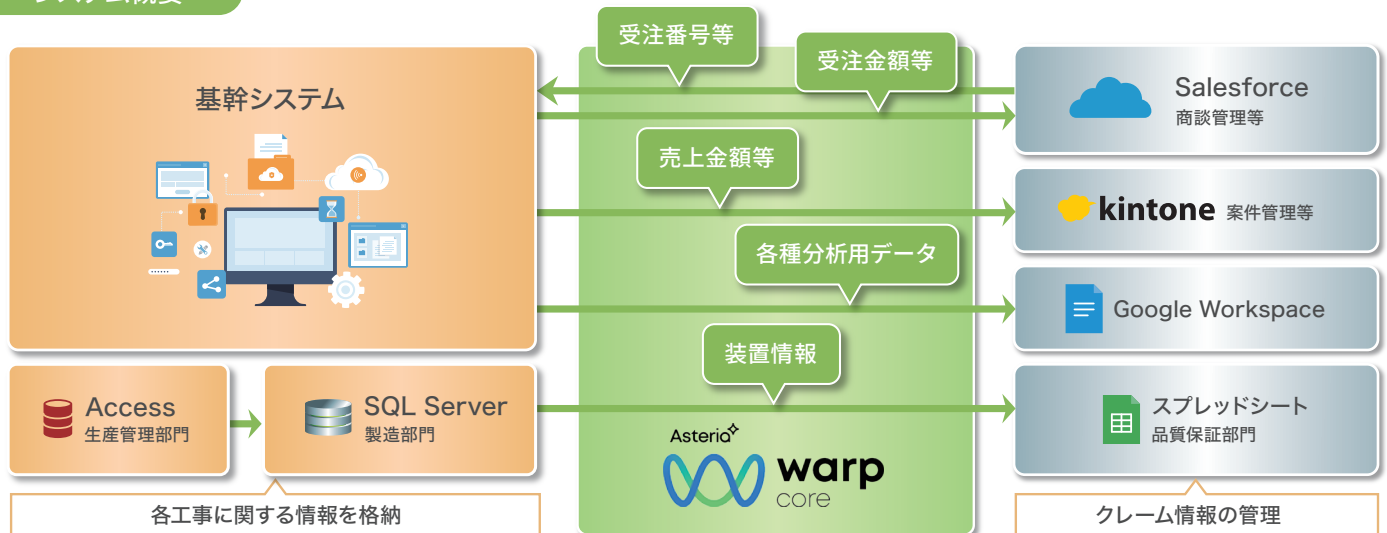
選定ポイント

- 複数のベンダーに相談した結果、ASTERIA Warpが業界のデファクトスタンダードであることがわかった
- さまざまなクラウドサービスと簡単に連携でき、複雑な条件設定や双方向連携なども、ノーコードで直感的に開発可能
- 導入実績が高く、ユーザーコミュニティも充実している

効果

- 金額データの二重入力が不要になり工数が削減され、入力ミスもなくなり業務品質が向上
- 業務に必要なデータ連携をアダプターやフローテンプレートを活用し短期間で開発
- ノーコードでのデータ連携開発が可能のため、今後BPRを進める上で新システムの追加や変更に対応

システム概要



ユーザーの一言



現在の基幹システムではコラボレーション機能やダッシュボード機能などが不足していて、各事業部のデータ活用ニーズに応えることができません。そこでSalesforceやkintoneなどのクラウドサービスを導入しましたが、データの一元管理が課題になりました。クラウドサービスはBest of Breedの考え方が主流となっており、複数サービス導入することが一般的です。それらをうまく使いこなしていくには、Coreのようなデータ連携基盤が不可欠だと思います。今後は基幹システムの刷新も視野に入れながら、BPRを推進していく予定です。

IT統括部 情報システム課長 佐藤 泰弘 様

User Profile



所在地：大阪市西淀川区竹島2-6-10
 会社概要：振動試験装置・メジャリングシステムの開発・製造、振動試験を中心とした試験の受託等
 業種：製造業
 URL：https://www.imv.co.jp